



(2006年5月)

【今後の学会活動予定】

1. 平成18年度大会・部会・談話会等開催予定

- (1) 平成18年度大会：平成18年6月3～5日
札幌コンベンションセンター（札幌市）
- (2) 北海道部会：平成18年10月19～20日
北海道大学学術交流会館（札幌市）
- (3) 東北部会：平成18年9月28～29日
山形大学農学部（鶴岡市）
- (4) 関東部会：平成18年9月14～15日
東京農業大学農学部（厚木市）
- (5) 関西部会：平成18年10月28～29日
京都大学（京都市）
- (6) 九州部会：平成18年10月31日～11月1日
熊本テルサ（熊本市）
- (7) 第16回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム：平成18年
6月6日
北海道大学学術交流会館（札幌市）
- (8) 第8回植物ウイルス病研究会：平成18年6月6日
北海道大学学術交流会館（札幌市）
- (9) 第9回植物病害生態研究会：平成18年6月6日
北海道大学学術交流会館（札幌市）
- (10) EBC (Evidence-Based Control) 研究会ワークショップ：
平成18年6月2日
北海道大学農学部（札幌市）
- (11) 第42回植物感染生理談話会：平成18年8月17～19日
松江テルサ（松江市）
- (12) 第23回土壌伝染病談話会：平成18年9月7～8日
草津音楽の森国際コンサートホール（群馬県草津町）

2. 第3回教育プログラム開催予定

受講対象：本学会の若手会員（社会人を優先します）
募集定員：25名
開講日時：平成18年8月28日（月）から9月1日（金）
までの5日間

開講場所：大阪府立大学生命環境科学研究科（旧農学部、
599-8531 堺市中区学園町1-1）

受講費用：30,000円（学生は15,000円）＋懇親会費4,000
円（予定）

申し込み：実行委員代表（大阪府立大学生命環境科学研究科 大木 理）あて、
メール（ohki@plant.osakafu-u.ac.jp）あるいは
ファクシミリ（072-254-9410）で、氏名、勤
務先（または学校名）とその所在地、メー
ルアドレス、電話番号、受講希望理由を明記
の上、6月30日（金）13：00以降に申し込
んでください（事前の申し込みは受け付けませ
ん）。

詳細：本号の巻頭差込をご覧ください。

【日本学術会議関連委員会からの報告】

学術会議微生物研究連絡会議がなくなる！

ご存知のように日本学術会議の大幅な改革に際し、「日本学術会議の新しい体制の在り方に関する懇談会（遠藤實座長）」に提出された報告書「日本学術会議の新しい体制の在り方—新体制の円滑な発足のための提案—」について資料が配布され、委員長から詳細な説明があった。研究連絡委員会関連の内容としては、全ての研究連絡委員会は廃止され、30の分野別委員会が置かれる（農学基礎、生産農学など）ことになった。なお、学術会議が加盟している国際学術団体（IUMS、国際微生物連合等）については、支障があるので、国際委員会の下に「国際学術団体分科会（例えばIUMS分科会）」を設置して対応することになった。なお、微生物研究連絡会議は微生物（ウイルスを含む）を異なる角度から扱う多くの学術団体が集まった組織であり、これまで国際対応の窓口として、また、我が国の微生物関連施策に提言する組織として、大きな役割を果たしてきた。本研究連絡会議ではこの認識に立ち、廃止に対応するため、同様な役割をもった新組織（国内微生物学関連学

協会、仮称)を我々自身で組む必要があるとの認識に立ち、議論を重ねてきた。また各学会へのアンケートも実施し、本学会からも基本的に主旨に賛同いただき、学会としての分担金を年会費として納めて参加する事で了承していただいている。なお、現在の微生物研連委員が引き続き上記新組織の具体像をE-メール等でさらに詰めて、発足に向けて準備する事になっている。(露無慎二)

日本学術会議と本学会との関連について

上記の報告のように日本学術会議は全く新しい体制となり、全ての研究連絡委員会は廃止され、現在は第一次連携会員が発表され、第二次連携会員の選考が始まっているようです。このため、新しい学術会議と本学会の関連については、秋以降に学術会議の体制が固まった段階で、学術会議の連携会員に就任された本学会会員にご報告いただく予定です。(夏秋知英)

【日本農学会報告】

平成18年度(第77回)日本農学大会が新役員(鈴木昭憲会長、山崎耕宇副会長、日比忠明副会長、岩本純明および森田茂紀監査委員)のもと、平成18年4月5日(水)午前10時より、満開のサクラ咲く東京大学山上会館にて開催された。新農学会長ならびに読売新聞社社長代行の北村行孝同社科学部長より、下記の8氏の優れた業績に対して、それぞれ平成18年度日本農学賞および第43回読売農学賞が授与された。授与式に引き続き各受賞者よりそれぞれの立派な研究成果に基づく内容の深い含蓄のある講演がなされた。続いて、「農学の課題と展望2006」と題し、山崎耕宇副会長がコーディネーターを勤め、日本農学賞・読売農学賞受賞者がパネラー、北村行孝読売新聞社科学部長がコメントーターとなってパネルディスカッションが開催され、受賞者を中心に「農学のあり方」について活発な議論がなされた。全て終了後、受賞祝賀会に移り、受賞者をお祝いするとともに学会にわたる参加者間の交流が活発に行われた。

記

- 1) 岩永 勝氏(国際トウモロコシ・コムギ改良センター所長)「植物遺伝資源の保全と利用のための遺伝育種研究と国際貢献」
- 2) 大川秀郎氏(福山大学生命工学部教授)「シトクロムP450モノオキシゲナーゼによる生物変換に関する遺伝子工学的研究」
- 3) 小原嘉昭氏(東北大学大学院農学研究科教授)「乳牛の代謝・泌乳特性の解明と酪農生産技術開発への応用

に関する栄養生理学的研究」

- 4) 梶原忠彦氏(山口大学名誉教授)「磯の香りに関する研究」
- 5) 坂野好幸(東京農工大学大学院共生科学技術研究部教授)「澱粉および関連多糖に作用する酵素の基礎と応用に関する先駆的研究」
- 6) 進士五十八氏(東京農業大学地域環境科学部教授)「日本庭園の特質に関する研究」
- 7) 中筋房夫氏(岡山大学大学院環境学研究科教授)「害虫の総合管理に関する一連の研究」
- 8) 箕輪光博氏(東京農業大学地域環境科学部教授)「森林の計測、成長および評価に関する数理科学的研究」
(道家紀志)

【学会ニュース編集委員コーナー】

本ニュースは身近な関連情報を気軽に交換することを主旨として発行されております。会員の各種出版物のご紹介、書評、会員の動静、学会運営に対するご意見、会員の関連学会における受賞、プロジェクトの紹介などの情報をお寄せ頂きたいいたします。

投稿宛先：〒170-8484 豊島区駒込1-43-11

日本植物防疫協会ビル内

学会ニュース編集委員会

FAX: 03-3943-6086

または下記学会ニュース編集委員へ：

松山宣明、夏秋知英、石井英夫、堀江博道、小板橋基夫、各委員宛

編集後記

学会ニュース第34号をお送り致します。本号では6月の学会大会前後に催されるワークショップや各種研究会、8月に催される植物感染生理談話会、9月に予定されている土壌伝染病談話会、今秋に予定されている各地の部会のご案内を掲載いたしました。また、今回で3回目となる教育プログラムの開催予定をお知らせしました。受け入れ人数に限りがありますので申し込み日の充分なご確認をなさってください。また、大幅な改革が行なわれる日本学術会議の最近の動きや日本農学会受賞者のご紹介などについても掲載いたしました。
(松山宣明)